

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成23年8月11日
【四半期会計期間】	第60期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第1四半期連結 累計期間	第60期 第1四半期連結 累計期間	第59期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(千円)	4,450,870	4,253,241	18,432,218
経常利益(千円)	239,818	79,670	1,314,802
四半期(当期)純利益(千円)	86,971	10,429	580,226
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	79,945	22,229	557,856
純資産額(千円)	5,296,146	5,536,875	5,774,005
総資産額(千円)	12,600,373	12,726,612	12,316,592
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	8.38	1.01	55.93
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	42.0	43.5	46.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 平成22年4月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

5. 第59期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、極めて不透明な状況となり、消費マインドの冷え込みや自粛ムードの蔓延、節約志向の浸透により個人消費は低迷し、依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは、経営理念の具現化に向け『熱狂的ファン創り』の徹底実践と強固な経営基盤の構築に向け『新成長エンジン創り』をテーマに、具体的対策に落とし込み、刻々変化する市場動向と顧客ニーズを的確に捉えながら、全従業員の総力を結集し、積極果断に事業施策を推進いたしました。

売上面では、期初であります4月が震災の影響を大きく受け、大幅な減収を余儀なくされた一方、5月以降は、自粛ムードが和らぎ、積極的な施策実施の効果と高速道路料金の「休日上限千円」の割引制度廃止前の駆け込み需要など一時的なプラス要因も加わり、概ね前年並みに回復いたしました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、4,253百万円（前年同期比4.4%減）となりました。

利益面では、主力ブランド「ルタオ」の更なる知名度の向上と新成長エンジン創りに向け、人員の補強やプロモーション展開、新規出店などの戦略的投資を期初より積極的に遂行したことにより、売上高に対する販売管理費率が2.6ポイント上昇いたしました。その結果、営業利益は80百万円（前年同期比64.3%減）、経常利益は79百万円（前年同期比66.8%減）、四半期純利益は10百万円（前年同期比88.0%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、地元北海道地区が旅行需要の低迷により依然として厳しい状況の中、認知度の更なる向上と強固なブランドの構築に向け、有名タレントを起用したテレビCMの放映や日本テレビ系番組「スッキリ!!」との共同開発企画などプロモーション展開を推進し、また、本年5月に小樽市で6店舗目となる大型新店舗「パトス」の立上げや新商品「シンデレラ デ フロマージュ」、「宇治抹茶ドゥーブルフロマージュ」の投入による通販企画の充実など様々な対策強化に取り組みました。その結果、売上高は、1,630百万円（前年同期比2.5%減）、営業利益は68百万円（前年同期比54.9%減）となりました。

寿製菓

寿製菓は、売上面では、震災の影響により関東地区の代理店向けが低迷した一方、地元山陰地区では、モンドセレクション最高金賞を受賞した「白ウサギフィナンシェ」が、PR展開の奏功により続伸しました。また、生産面では期初よりグループ会社向けの新商品が加わった「ラングドシャ」ラインが、堅調に推移いたしました。その結果、売上高は1,490百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益は55百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

販売子会社（11社）

販売子会社（11社）は、交通機関市場を中心に、販売強化に努めた結果、売上高は933百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益は13百万円（前年同期比9.9%増）となり、概ね前年同水準を維持することができました。

九十九島グループ

九十九島グループは、モンドセレクション2年連続最高金賞W受賞のPR展開や新商品「はかたんもん」の拡販など販売強化に努めた一方、震災の影響により大手テーマパーク向け売上が落ち込み、苦戦を強いられました。その結果、売上高は627百万円（前年同期比7.7%減）、営業損失18百万円（前年同期は営業利益11百万円）となりました。

但馬寿

但馬寿は、震災の影響を受け、売上高は214百万円（前年同期比11.9%減）、営業利益は1百万円（前年同期比92.5%減）と低調に推移しました。

つきじちとせ

つきじちとせは、震災発生以降、羽田空港での売上が搭乗客減少により大幅に落ち込んだ状況を踏まえ、本年6月より新たに「東京ミルクチーズ工場」と「コートクールシュクレ」の2ブランドを立上げ、業績の早期の回復に努めました。その結果、売上高は154百万円（前年同期比0.5%増）、営業損失は11百万円（前年同期は営業損失18百万円）となりました。

その他

その他は、損害保険代理業が含まれております。売上高は1百万円（前年同期比13.4%減）となり、営業利益は0百万円（前年同期比31.4%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、12,726百万円となり、前連結会計年度末と比べ410百万円増加しました。主な要因は、ケイシイシイ「ルタオ」の新店舗建設工事など設備投資の実施により「有形固定資産」が242百万円増加したことによります。

負債は、7,189百万円となり、前連結会計年度末と比べ647百万円増加しました。主な要因は、「賞与引当金」が186百万円減少、「未払法人税等」が確定納付により135百万円減少、「1年内返済予定の長期借入金」が217百万円減少による減少要因があった一方、流動負債の「その他」が賞与関連の未払費用計上及び設備関係未払金の発生により750百万円増加、「長期借入金」が設備資金調達などにより388百万円増加による増加要因があったことによります。

純資産は、5,536百万円となり、前連結会計年度末に比べ237百万円減少しました。主な要因は、配当金の支払いによる減少によります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.4ポイント減少し43.5%となり、1株当たり純資産は533円75銭となりました。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、8,681千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、ケイシイシイで店舗を新規出店したこと、各セグメントで新卒採用を行ったことなどの要因により、グループ全体の従業員数は前連結会計年度末799人から85人増加し884人となっております。また、グループ全体の臨時従業員数は前連結会計年度末553人から37人減少し516人となっております。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第1四半期連結累計期間に完成したものは次のとおりであります。

会社事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資額 (千円)	完了年月	完成後の 増加能力
㈱ケイシイシイ パトス	北海道小樽市	ケイシイシイ	新店舗建設	333,303	平成23年5月	(注)2

(注) 1. 金額には消費税等を含めておりません。

2. 当該計画は新店舗の出店のため、生産能力の大幅な増加はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,373,840	10,373,840	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	10,373,840	10,373,840	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年4月1日~ 平成23年6月30日	-	10,373,840	-	1,217,800	-	550,269

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	200	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 10,372,800	103,728	-
単元未満株式	普通株式 840	-	-
発行済株式総数	10,373,840	-	-
総株主の議決権	-	103,728	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数60個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,067,291	2,065,625
受取手形及び売掛金	1,718,193	1,752,395
商品及び製品	434,018	426,587
仕掛品	23,784	23,573
原材料及び貯蔵品	311,531	306,812
その他	342,959	431,747
貸倒引当金	15,957	26,528
流動資産合計	4,881,819	4,980,211
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,008,182	3,219,579
機械装置及び運搬具(純額)	505,174	503,697
工具、器具及び備品(純額)	172,015	212,089
土地	2,571,639	2,571,639
リース資産(純額)	67,687	66,361
建設仮勘定	5,886	-
有形固定資産合計	6,330,583	6,573,365
無形固定資産	122,646	145,675
投資その他の資産		
その他	1,033,736	1,083,022
貸倒引当金	52,192	55,661
投資その他の資産合計	981,544	1,027,361
固定資産合計	7,434,773	7,746,401
資産合計	12,316,592	12,726,612
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	609,372	643,146
短期借入金	2,100,000	2,150,000
1年内返済予定の長期借入金	685,898	468,598
未払法人税等	202,957	67,565
賞与引当金	358,631	172,119
その他	603,609	1,353,648
流動負債合計	4,560,467	4,855,076
固定負債		
長期借入金	913,735	1,302,258
退職給付引当金	717,011	719,376
役員退職慰労引当金	120,638	83,851
その他	230,736	229,176
固定負債合計	1,982,120	2,334,661
負債合計	6,542,587	7,189,737

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	3,243,333	2,994,422
自己株式	239	258
株主資本合計	5,784,055	5,535,125
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,050	1,750
その他の包括利益累計額合計	10,050	1,750
純資産合計	5,774,005	5,536,875
負債純資産合計	12,316,592	12,726,612

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	4,450,870	4,253,241
売上原価	2,277,179	2,199,459
売上総利益	2,173,691	2,053,782
販売費及び一般管理費	1,947,003	1,972,857
営業利益	226,688	80,925
営業外収益		
受取利息	144	80
受取配当金	1,219	1,225
受取地代家賃	19,945	4,945
その他	5,997	5,347
営業外収益合計	27,305	11,597
営業外費用		
支払利息	13,404	11,500
その他	771	1,352
営業外費用合計	14,175	12,852
経常利益	239,818	79,670
特別損失		
固定資産売却損	36	-
固定資産除却損	4,082	222
投資有価証券評価損	-	30,458
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	49,357	-
特別損失合計	53,475	30,680
税金等調整前四半期純利益	186,343	48,990
法人税等	99,372	38,561
少数株主損益調整前四半期純利益	86,971	10,429
四半期純利益	86,971	10,429

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	86,971	10,429
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	7,026	11,800
その他の包括利益合計	7,026	11,800
四半期包括利益	79,945	22,229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	79,945	22,229

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	
当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
減価償却費	124,584千円	134,648千円
負ののれんの償却額	221	-

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	259,341	50.00	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	259,340	25.00	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シイ	寿製菓	販売子会社 (11社)	九十九島 グループ	但馬寿	つきじ ちとせ	計
売上高							
外部顧客への売上高	1,561,551	1,104,772	937,753	621,113	88,470	135,347	4,449,006
セグメント間の内部 売上高又は振替高	110,319	438,619	184	58,715	155,366	18,339	781,542
計	1,671,870	1,543,391	937,937	679,828	243,836	153,686	5,230,548
セグメント利益 (は損失)	151,847	57,909	12,381	11,790	21,221	18,116	237,032

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	1,864	4,450,870	-	4,450,870
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	781,542	781,542	-
計	1,864	5,232,412	781,542	4,450,870
セグメント利益 (は損失)	862	237,894	11,206	226,688

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれており
 ます。

2. セグメント利益(は損失)の調整額 11,206千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額98,789千円、セ
 グメント間取引消去額2,897千円、たな卸資産の調整額 3,580千円、各報告セグメントに配分していない全社
 費用 109,312千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社 (11社)	九十九島 グループ	但馬寿	つきじ ちとせ	計
売上高							
外部顧客への売上高	1,523,046	1,044,279	933,287	551,063	77,933	122,019	4,251,627
セグメント間の内部 売上高又は振替高	107,605	446,457	134	76,288	136,835	32,364	799,683
計	1,630,651	1,490,736	933,421	627,351	214,768	154,383	5,051,310
セグメント利益 (は損失)	68,558	55,589	13,608	18,657	1,586	11,159	109,525

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	1,614	4,253,241	-	4,253,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	799,683	799,683	-
計	1,614	5,052,924	799,683	4,253,241
セグメント利益 (は損失)	591	110,116	29,191	80,925

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額 29,191千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額110,194千円、セグメント間取引消去額3,034千円、たな卸資産の調整額 797千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 141,622千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	8円38銭	1円01銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	86,971	10,429
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	86,971	10,429
普通株式の期中平均株式数(株)	10,373,650	10,373,582

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月 5日

寿スピリッツ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 憲次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水野 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。